

2月21日洞爺青年団体協議会などで作る実施委員会主催の第27回とうや冬まつりが、とうや水の駅特設会場で開かれ、滑り台でそり遊びをする子供たちの歓声が響いていました。

今年は、大雪で目玉の滑り台が例年の2倍の高さ5、長さ20に巨大化され、そのスピードの迫りに子ども達は大喜び。

会場では、そばやフランクフルト、おでんなどの露店が出され、午前中に完売する店が出るほどの盛況でした。

そのほか×クイズや宝探し、ビンゴゲームなどのアトラクションも行われ、楽しそうな声が会場をおおっていました。



ビンゴゲームで盛り上がる冬まつり

巨大滑り台が大人気 とうや冬まつり開く

2月25日役場防災研修ホールで、教育委員会主催の「平成21年度洞爺湖町女性学級」が開かれ、活発な意見が参加者から寄せられました。参加したのは、大原地区女性部、ウイメンズネットワークなど町内の女性団体から約20人。

講演会では、前田節子さん（学校法人北斗文化学園非常勤講師）が、女性の立場から地域づくりにどう主体的に関っていくのかを、室蘭市の男女平等共同参画推進市民会議の活動を例にとりながら話をしました。

引き続き、各団体からの意見発表が行われ、「町内の女性団体同士のネットワークが必要」など熱心な論議がなされました。



活発な意見が寄せられた婦人学級

女性学級に20人参加 町内のネットワークづくりを確認

歩くスキーの集い 羊蹄山望む5キロのコースに汗流す

冬の体力づくりの一环として、教育委員会では、毎年歩くスキーの集いを開催してきました。今年度も2月19日花和特設コースで



晴天の中、歩くスキーを楽しむ参加者ら

24人が参加して行われ、心地よい汗を流しました。

コースは、旧花和小学校周辺を歩く約5キロ。当日は天候にも恵まれ、羊蹄山、ニセコ連邦を望みながら1時間30分から2時間程かけて完走しました。

昼食では、花和自治会のお母さん達が作ってくれた豚汁や牛乳が振舞われ、疲れた体を癒してくれました。

工ゾシカ、タヌキなどによる農業被害が増大していることを受けて、洞爺湖町鳥獣被害防災対策協議会（会長・吉田茂副町長）が、2月25日研修会を行い、約50人が参加して、被害防止への取組みや箱わなの取扱いについて学びました。平成20年度の町内の農業被害は、約500万円で、昨年夏に初めてアライグマによる農業被害が確認されるなど増加する傾向にあります。

研修会では、このような実態を踏まえ、具体的な対策計画や捕獲の実践例などが報告されました。

アライグマ対策として、5月、6月の繁殖期を前にして4月から箱わなの貸し出しも決めました。



鳥獣被害防止を話し合う研修会

鳥獣の被害増大 対策協議会4月から箱わな貸し出し

まちのわだい